

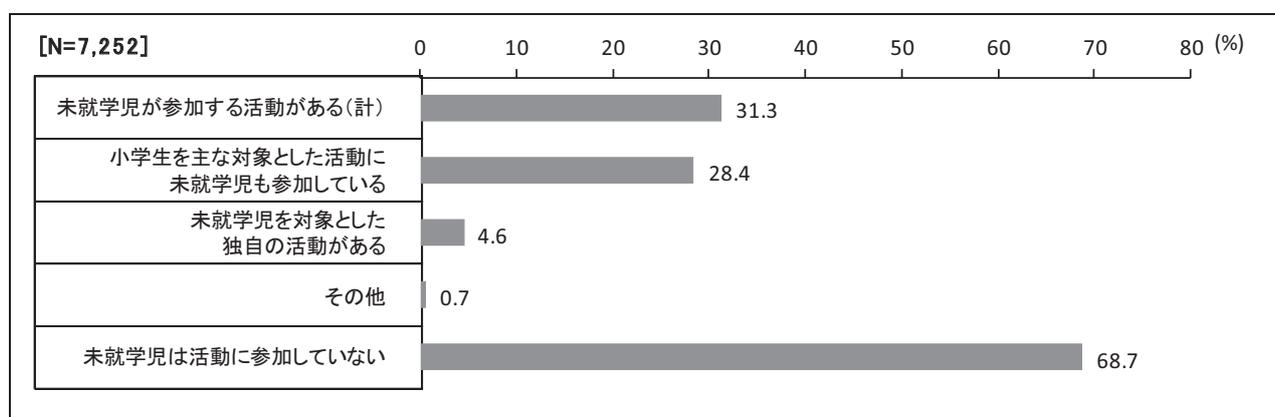
2. 幼児を対象とした活動の有無

(1) 幼児（未就学児）の活動状況

単位団における幼児（未就学児）の活動状況をみると、「小学生を主な対象とした活動に未就学児も参加している」(28.4%)が3割弱を占める(図表 2-1)。「未就学児を対象とした独自の活動がある」単位団は4.6%にとどまる。未就学児が参加するなんらかの活動があるという単位団は3割強である。

また、「小学生を主な対象とした活動に未就学児も参加している」または「未就学児を対象とした独自の活動がある」と回答した単位団の活動種目をみると、いずれも「サッカー」(19.1%、33.6%)、「剣道」(17.8%、14.5%)が1位、2位を占めている(図表 2-2)。特に、「未就学児を対象とした独自の活動がある」においては、「サッカー」の割合は他の種目に比べて突出している。

図表 2-1 幼児(未就学児)の活動状況(複数回答)



注) 『未就学児が参加する活動がある(計)』は、次の3つの選択肢「小学生を主な対象とした活動に未就学児も参加している」「未就学児を対象とした独自の活動がある」「その他」のいずれか一つ以上を回答した団の割合。複数回答した場合も1とカウントするため、何らかの未就学児向けの活動を実施している団の割合となる。

図表 2-2 活動種目別にみた幼児(未就学児)の活動状況(複数回答)

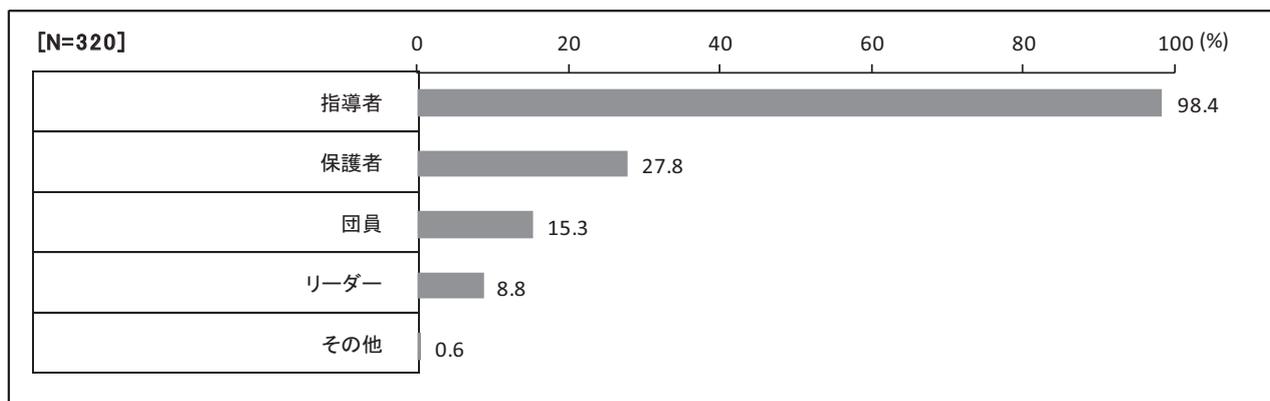
順位	小学生対象の活動に未就学児も参加 (n=2,063)			順位	未就学児を対象とした独自の活動 (n=330)		
	種目	N	%		種目	N	%
1	サッカー	395	19.1	1	サッカー	111	33.6
2	剣道	367	17.8	2	剣道	48	14.5
3	軟式野球	291	14.1	3	空手道	41	12.4
4	空手道	285	13.8	4	軟式野球	33	10.0
5	柔道	201	9.7	5	柔道	30	9.1
6	バレーボール	96	4.7	6	フットサル	15	4.5
7	ミニバスケットボール	68	3.3	7	野外活動	9	2.7
8	少林寺拳法	56	2.7	8	競泳	8	2.4
9	ソフトボール	48	2.3	9	バレーボール	7	2.1
10	バドミントン	44	2.1	10	器械体操	6	1.8
11	フットサル	35	1.7		ミニバスケットボール	6	1.8
	野外活動	35	1.7		少林寺拳法	6	1.8
13	陸上競技	33	1.6	13	ソフトボール	5	1.5
14	ソフトテニス	23	1.1		バドミントン	5	1.5
15	卓球	22	1.1	15	アルペンスキー	4	1.2
					ソフトテニス	4	1.2
					卓球	4	1.2

注) 主な2種目を足し合わせて算出。

(2) 未就学児を対象とした独自の活動の担当者

未就学児を対象とした独自の活動があると回答した単位団に、その担当者を尋ねたところ、「指導者」が98.4%であり、ほぼ全ての単位団において、指導者が担当している(図表 2-3)。次いで、「保護者」(27.8%)、「団員」(15.3%)、「リーダー」(8.8%)の順となっている。

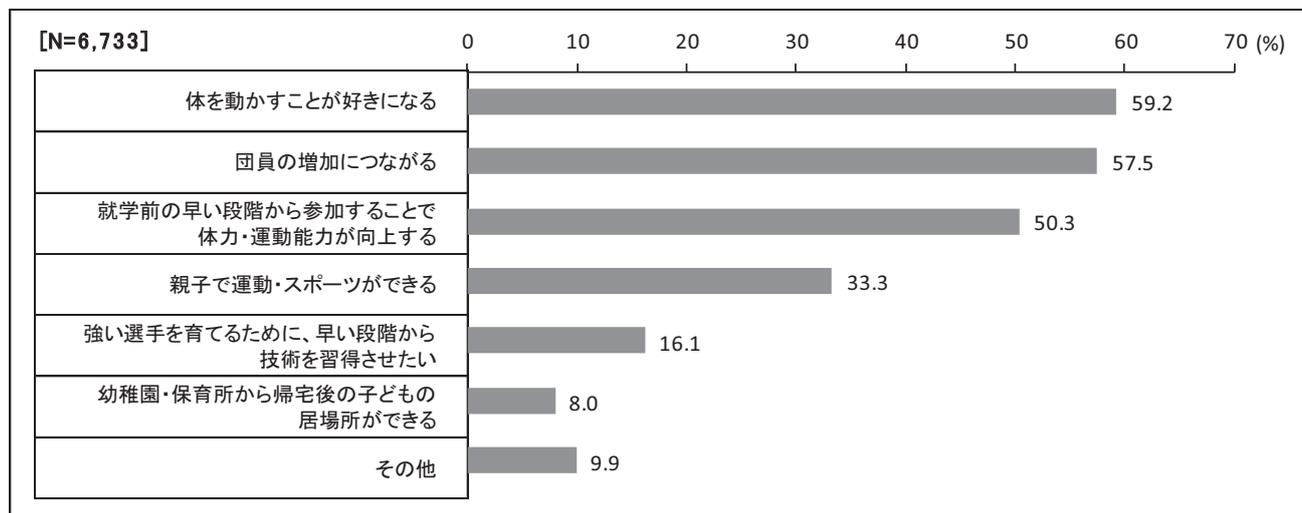
図表 2-3 未就学児を対象とした独自の活動の担当者(複数回答)



(3) 単位団の活動に未就学児から参加させる理由

単位団の活動に未就学児から参加させる理由をみると、「体を動かすことが好きになる」(59.2%)と「団員の増加につながる」(57.5%)が6割弱で最も多くあげられている(図表 2-4)。次いで、「就学前の早い段階から参加することで体力・運動能力が向上する」(50.3%)、「親子で運動・スポーツができる」(33.3%)が続く。

図表 2-4 単位団活動に未就学児から参加させる理由(複数回答)



(4) 単位団の活動に未就学児から参加させる理由（種目別）

主な活動種目の上位 20 種目(図表 1-3, p.7 参照)における、単位団の活動に未就学児から参加させる理由をみると、「体を動かすことが好きになる」はいずれの種目も半数または半数以上が参加理由として回答している。「フットサル」が 71.3%と最も多く、次いで「柔道」「テニス」がともに 64.5%であった(図表 2-5)。

「団員の増加につながる」では、「剣道」(72.2%)が最も多く、「柔道」(65.2%)、「少林寺拳法」(65.1%)と武道系の種目が続く。「強い選手を育てるために、早い段階から技術を習得させたい」は、「卓球」(34.6%)が最も多く、次いで「空手道」(29.0%)、「フットサル」(25.7%)である。

図表 2-5 種目別にみた単位団活動に未就学児から参加させる理由(複数回答)
(主な活動種目の上位 20 種目)

		(%)						
		に体を動かすことが好きになる	団員の増加につながる	小学生前の早い段階から運動能力が向上する	親子で運動・スポーツができる	強い選手を育てるために、早い段階から技術を習得させたい	幼稚園・保育所から帰ることができる	その他
全体	(n=6,733)	59.2	57.5	50.3	33.3	16.1	8.0	9.9
軟式野球	(n=2,068)	47.9	50.5	38.0	36.2	10.4	5.9	9.5
サッカー	(n=1,052)	57.5	41.9	40.8	26.4	10.5	9.3	9.8
バレーボール	(n=1,030)	61.6	57.8	52.4	31.2	16.3	7.8	5.5
剣道	(n=661)	51.7	72.2	52.8	20.0	17.4	5.1	8.6
ミニバスケットボール	(n=604)	57.8	48.3	40.1	18.9	12.3	5.6	12.1
空手道	(n=376)	56.4	56.4	68.6	31.6	29.0	10.1	8.8
ソフトボール	(n=352)	51.1	48.9	38.9	37.8	10.5	8.5	9.9
柔道	(n=279)	64.5	65.2	62.4	24.4	14.7	8.2	10.8
バドミントン	(n=169)	53.8	45.0	49.1	36.1	25.4	8.3	9.5
バスケットボール	(n=168)	53.6	40.5	38.1	17.3	14.3	3.6	7.7
陸上競技	(n=140)	51.4	37.9	44.3	37.9	10.7	15.0	9.3
ソフトテニス	(n=117)	52.1	34.2	47.0	34.2	20.5	11.1	15.4
少林寺拳法	(n=106)	59.4	65.1	45.3	45.3	5.7	14.2	6.6
卓球	(n=104)	49.0	48.1	54.8	34.6	34.6	6.7	16.3
フットサル	(n=101)	71.3	58.4	54.5	32.7	25.7	11.9	5.9
野外活動	(n=85)	55.3	64.7	48.2	49.4	9.4	14.1	7.1
競泳	(n=50)	48.0	60.0	58.0	26.0	24.0	14.0	12.0
アルペンスキー	(n=48)	54.2	47.9	45.8	50.0	20.8	2.1	8.3
ドッジボール	(n=37)	54.1	64.9	56.8	43.2	5.4	16.2	8.1
テニス	(n=31)	64.5	19.4	45.2	41.9	19.4	3.2	3.2